

〔料理山海郷〕榧酒。

上栢いりてしぶかわをさり、又色付ほどいりて摺ばちにてよくすりて、酒にてこしあた、めてもちゆ、栢二百にさけ壹升のつもりなり。

〔料理山海郷〕龍眼酒。

燒酎二升、氷おろし半斤、龍眼肉皮實を去、肉計壹斤、右一所に壺へ入れ口よくしめ、湯せんにして少し温其後雨のあたらざる地へ埋置、十日計してよし。

〔日本書紀神代〕一書曰、中素戔嗚尊之計釀毒酒以飲之、蚩醉而睡、

〔陸奥話記〕同康平五年九月十一日、鷄鳴襲鳥海柵、行程十餘里也、官軍未到之前、宗任經清等棄城走保、

川柵將軍源賴義入鳥海柵、暫休士卒、柵中一屋釀酒數十甌、士卒爭欲飲之、將軍制止云、恐賊類設毒酒、

欺疲頓軍矣、而雜人中一兩人飲之無害、而後合軍飲之、皆呼萬歲、

〔類聚國史百七十三〕大同元年九月壬子、遣使封左右京及山崎津難波津酒家、糞以水旱成災、穀米騰躍也、

制度

毒酒

〔吾妻鏡四十二〕建長四年九月卅日辛亥、鎌倉中所々、可禁制沽酒之由、仰保々奉行人等、仍於鎌倉中所々民家、所註之酒壺三萬七千二百七十四口云云、又諸國市酒全分可停止之由云云、十月十六日丁卯、沽酒禁制、殊有其沙汰悉以被破却壺、而一屋一壺被宥之、但可用他事、不可有造酒之儀、若有違犯之輩者、可被處罪科之由、固定下之云云、

〔新編追加雜務〕一條々諸國一同被仰下畢

一河手事 一津泊市津料事 一沽酒事 一押買事

右四箇條所被禁制也、中守此旨、可被相觸國中、若令違犯者、可被注申之狀、依仰執達如件、

弘安七年六月三日

駿河守 判